

追悼 賀川 浩



Photo © KaiSawabe

●ウェブサイト

日本サッカーアーカイブ

<http://archive.footballjapan.jp/>

日本のサッカーの歴史をテキストと、
写真でアーカイブ

賀川サッカーライブラリー

<http://library.footballjapan.jp/>

賀川浩の過去の著作をデータベース化

賀川浩の片言隻句

<http://kagawa.footballjapan.jp/>

最新のサッカーについて語る「ひとこと」

●主な著作/監修

「90歳の昔話ではない。」

古今東西サッカークロニクル (東邦出版)

「サッカー ストライカーの技術講座」(ベースボール・マガジン社)

「ワールドクラスの技術」(ベースボール・マガジン社)

「釜本邦茂・ストライカーの技術と戦術」(講談社)

「釜本邦茂・ストライカーの美学」(東方出版)

「ボールを蹴って50年」(神中サッカー・クラブ)

「サッカー日本代表世界への挑戦」(新紀元社)

「決定版ワールドカップ全史」(ブライアン・グランヴィル著) (草思社)

「ワールドカップ・ストーリー」(ブライアン・グランヴィル著) (新紀元社)

FIFA会長賞



Photo © KaiSawabe

FIFA会長賞受賞スピーチ

FIFA President Mr. Blatter, ladies and gentlemen.

I am very proud to be able to attend this wonderful ceremony for the FIFA Ballon d'Or. It is simply the greatest honour to be presented with the prestigious FIFA Presidential Award.

In 1979, Mr. Blatter was part of the FIFA organising committee at the second FIFA World Youth Championship in Japan, where 19-year-old Diego Maradona played.

Unfortunately, my English has not made any progress since that tournament, so I was a little bit hesitant about actually coming to the ceremony today. But my young friends in Japan were very encouraging and said I must come - if only to meet Manuel Neuer, Cristiano Ronaldo, and Lionel Messi. They told me not to forget to bring them back some autographs.

Thank you very much.
ARIGATO

日本語オリジナル原稿

ブラッター会長、ご列席の皆さま。

バロンドールの表彰という、年に一度のFIFAのすばらしいセレモニーに出席できて光栄に思います。

またFIFA会長賞というとても大きな賞を頂くことはこの上ない名誉です。

昨年12月にブラッター会長からメールが届いたときには本当に驚きました。

私は62年間ジャーナリストとしてスポーツとりわけサッカーのレポートを書きつづけてきました。74年以来、2014年ブラジル大会までの10回取材をしたワールドカップについても、新聞や雑誌で多くのページを使いました。その量と内容には多少の自負もありますが、すべてが日本語の文章で日本文の記事でした。したがって世界中で読まれることなく、私の友人の世界的なフットボールジャーナリストにくらべると、日本というローカルの記者にすぎません。

そうした極東の一記者がFIFA会長賞を受けてよいのだろうか、しばらく考えました。そして日本サッカーが近年に急速に成長したこと、その成長についてメディアが多少の役割を果たし、そのメディアのなかでの最年長者として会長は私を表彰して下さるのだと思うようになりました。

日本のサッカーには長い歴史があり、JFAには1921年から94年の流れもあります。その歴史のなかに優れた記者の先輩やテレビでのサッカー開拓者もおられます。私と同世代にも立派な記者がただでなく80歳をこえてなおワールドカップを取材している仲間もいます。

そうした仲間、さらにはどんどんあらわれてくるメディアの後輩たち、つまりは日本のフットボールジャーナリストの最年長者としてこの受賞の名誉をうけることで、FIFAがメディアを大切なものと考えていることを伝えたいと思います。

会長は1979年第2回ワールドユース日本開催、ディエゴ・馬拉ドーナが19歳で活躍した大会に、FIFAの担当者として大会の運営にあたられました。そのときアペランジェ会長の記者会見でフランス語の通訳に適任がなく、会長のフランス語をブラッターさんが英語に訳し、その英語を私が日本語で記者たちに伝えたこともありました。そのとき以来、ブラッター会長は日本サッカーに対して常に好意的であり、バックアップして下さることをいつも感謝しています。

私の英語はそのとき以来進歩していないので、今日の授賞式参列もいささかちゅうちょしたのですが、私の若い仲間たちから、ノイアーやロナウドやメッシに会えるだけでもいいじゃないか、大スターたちのサインをもらうことを忘れないで、と励まされ送り出されました。

ありがとうございます。

交友録ギャラリー



1979年のワールドユース以来の付き合いの**ブラッター**会長とHOME OF FIFAで再会
Photo © KaiSawabe



1979年 ワールドユースのとき、19歳の若き**マラドーナ**と



1941年 兵庫県大会で優勝。4試合で**岩谷俊夫**が5点、賀川が6点、合計11得点した記念

※文中敬称略



セルジオ越後の全面的なバックアップでブラジルワールドカップ取材が実現した



1999年 札幌監督(当時)の**岡田武史**と高知で。1969年に会ったメガネの中学生は、日本代表監督になった



1980年 来日した**ヨハン・クライフ**にインタビュー



1979年 **マリオ・ケンペス**にインタビュー



2000年 中国足球学校で指導中の**クラマー**を訪ねて。ドイツ協会から彼の75歳祝いのユニフォームが贈られてきた



1971年頃 ベルリン五輪のCF**川本泰三**と釣りに。“シュートの名人”は釣りやゴルフの腕前も相当なものだった



1963年 オーストリア・スキーの大指導者**ルディ・マツ**にはスポーツの技術指導で啓発されることが多かった。彦根城で



1983年 **ケビン・キーガン**とは何度も会った



1988年頃 **カール・ハインツ・ルムメニゲ**に平安神宮の庭園でインタビュー



1960年頃 **大谷四郎**（前列右端）はサッカーでも記者としても今も尊敬する先輩（賀川は同4人目）。記者クラブと関西協会役員の交歓試合で



1983年頃 **牛木素吉郎**とともに、指導の大家**ウィル・クーバー**、同夫人、**加藤正信**ドクター、**バルコム・コーチ**、賀川（右から）



1992年 トヨタカップで来日したサンパウロの**テレ・サンターナ**監督と

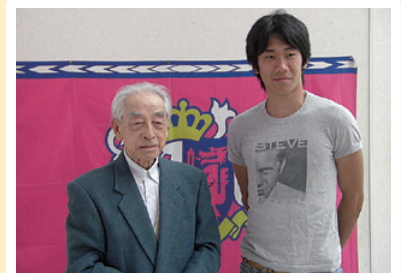


1986年 東京でのユニセフチャリティマッチで、パラグアイ代表キャプテンの**デルガド**と

※文中敬称略



1994年 米国W杯決勝、パサデナのスタジアムで。**中条一雄**、**国吉好弘**と



2008年9月 二人のカガワ。若い日本代表・**香川真司**と年寄りの記者・賀川(C)セレッソ大阪

2010年

第7回日本サッカー殿堂
入り。小倉純二会長から
プレートを受与される(C)
Jリーグフォト



W杯取材後、定年退職

1990年 平成2年

イタリアW杯(優勝・西ドイツ)

EURO 92(スウェーデン)取材

1991年 平成3年

2002年W杯日本招致委員会設立

Jリーグマッチコミッションナー就任

1993年 平成5年

アジアカップ(広島)優勝
ジャパンフットボールリーグ(JFL)発足
5月15日、Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)開幕
ドーハの悲劇、94年W杯の出場権を逃す

W杯取材

1994年 平成6年

米国W杯(優勝・ブラジル)。アジア大会(広島)八強
阪神・淡路大震災チャリティ

阪神大震災で書庫兼事務所が倒壊
アンプロカップ(イングランド)取材

1995年 平成7年

FIFAオールスターマッチ(国立)
日本が2002年W杯開催に立候補

EURO 96(イングランド)取材

1996年 平成8年

2002年W杯の日韓共催決まる
アトランタ五輪に日本が28年ぶり出場

Jリーグアウォーズで功労賞を受賞

1997年 平成9年

シヨホールバルの歓喜、イランを破りW杯初出場を決める
フランスW杯に初出場、一次リーグ敗退(優勝・フランス)

「賀川サッカーライブラリー」開設。W杯取材

1998年 平成10年

ワールドユース(ナイジェリア)で初の銀メダル
アジアカップ(レバノン)優勝、シドニー五輪八強

EURO 2000(オランダ/ベルギー)取材

2000年 平成12年

アジアカップ(レバノン)優勝、シドニー五輪八強

週刊サッカーマガジン

2000年 平成12年

アジアカップ(レバノン)優勝、シドニー五輪八強

「My Football Chronicle」連載開始
月刊グラン「このくにとサッカー」連載開始

2000年 平成12年

アジアカップ(レバノン)優勝、シドニー五輪八強

W杯取材

2001年 平成13年

コンフェデレーションズカップ日韓大会で準優勝(優勝・フランス)

2002年 平成14年

日韓W杯で初の16強進出(優勝・ブラジル)

JFA殿堂委員会委員に就任(08年7月)

2003年 平成15年

「JFAハウス」誕生、館内に「日本サッカーミュージアム」がオープン
第一回東アジアサッカー選手権開催、二位(優勝・韓国)

W杯取材

2004年 平成16年

FIFA設立100周年。アテネ五輪で女子代表が初勝利、八強進出

日本サッカーミュージアムの協力のもと「日本サッカーアーカイブ」開設

2005年 平成17年

「日本サッカー殿堂」創設

初の著書「90歳の昔話ではない。古今東西サッカークロニクル」を出版

2006年 平成18年

ドイツW杯でグループステージ敗退(優勝・イタリア)

ブラジルW杯を取材

2007年 平成19年

ドイツ女子W杯で優勝

南アフリカW杯で16強進出(優勝・スペイン)

ドイツ女子W杯で優勝

ブラジルW杯グループステージ敗退(優勝・ドイツ)

FIFA会長賞を受賞

2010年 平成22年

2011年 平成23年

2012年 平成24年

2013年 平成25年

2014年 平成26年

2015年 平成27年

2016年 平成28年

2017年 平成29年

2018年 平成30年

2019年 平成31年

2020年 令和2年

2021年 令和3年

2022年 令和4年

2023年 令和5年

2024年 令和6年

2025年 令和7年

2026年 令和8年

2027年 令和9年

2028年 令和10年

2029年 令和11年

2030年 令和12年

2031年 令和13年

2032年 令和14年

2033年 令和15年

2034年 令和16年

2035年 令和17年

2036年 令和18年

2037年 令和19年

2038年 令和20年

2039年 令和21年

2040年 令和22年

2041年 令和23年

2042年 令和24年

2043年 令和25年

2044年 令和26年

2045年 令和27年

2046年 令和28年

2047年 令和29年

2048年 令和30年

2049年 令和31年

2050年 令和32年

2051年 令和33年

2052年 令和34年

2053年 令和35年

2054年 令和36年

2055年 令和37年

2056年 令和38年

2057年 令和39年

2058年 令和40年

2059年 令和41年

2060年 令和42年

2061年 令和43年

2062年 令和44年

2063年 令和45年

2064年 令和46年

2065年 令和47年

2066年 令和48年

2067年 令和49年

2068年 令和50年

2069年 令和51年

2070年 令和52年

2071年 令和53年

2072年 令和54年

2073年 令和55年

2074年 令和56年

2075年 令和57年

2076年 令和58年

2077年 令和59年

2078年 令和60年

2079年 令和61年

2080年 令和62年

2081年 令和63年

2082年 令和64年

2083年 令和65年

2084年 令和66年

2085年 令和67年

2086年 令和68年

2087年 令和69年

2088年 令和70年

2089年 令和71年

2090年 令和72年

2091年 令和73年

2092年 令和74年

2093年 令和75年

2094年 令和76年

2095年 令和77年

2096年 令和78年

2097年 令和79年

2098年 令和80年

2099年 令和81年

2100年 令和82年

2101年 令和83年

2102年 令和84年

2103年 令和85年

2104年 令和86年

2105年 令和87年

2106年 令和88年

2107年 令和89年

2108年 令和90年

2109年 令和91年

2110年 令和92年

2111年 令和93年

2112年 令和94年

2113年 令和95年

2114年 令和96年

2115年 令和97年

2116年 令和98年

2117年 令和99年

2118年 令和100年

2119年 令和101年

2120年 令和102年

2121年 令和103年

2122年 令和104年

2123年 令和105年

2124年 令和106年

2125年 令和107年

2126年 令和108年

2127年 令和109年

2128年 令和110年

2129年 令和111年

2130年 令和112年

2131年 令和113年

2132年 令和114年

2133年 令和115年

2134年 令和116年

2135年 令和117年

2136年 令和118年

2137年 令和119年

2138年 令和120年

2139年 令和121年

2140年 令和122年

2141年 令和123年

2142年 令和124年

2143年 令和125年

2144年 令和126年

2145年 令和127年

2146年 令和128年

2147年 令和129年

2148年 令和130年

2149年 令和131年

2150年 令和132年

2151年 令和133年

2152年 令和134年

2153年 令和135年

2154年 令和136年

2155年 令和137年

2156年 令和138年

2157年 令和139年

2158年 令和140年

2159年 令和141年

2160年 令和142年

2161年 令和143年

2162年 令和144年

2163年 令和145年

2164年 令和146年

2165年 令和147年

2166年 令和148年

2167年 令和149年

2168年 令和150年

2169年 令和151年

2170年 令和152年

2171年 令和153年

2172年 令和154年

2173年 令和155年

2174年 令和156年

2175年 令和157年

2176年 令和158年

2177年 令和159年

2178年 令和160年

2179年 令和161年

2180年 令和162年

2181年 令和163年

2182年 令和164年

2183年 令和165年

2184年 令和166年

2185年 令和167年

2186年 令和168年

2187年 令和169年

2188年 令和170年

2189年 令和171年

2190年 令和172年

2191年 令和173年

2192年 令和174年

2193年 令和175年

2194年 令和176年

2195年 令和177年

2196年 令和178年

2197年 令和179年



1986年

メキシコW杯取材ツアー。前列左から橋本文夫、大住良之、賀川。後列右から2人目・今井恭司、その左・中条一雄



1959年

第1回アジアユースに報道役員として随行。杉山隆一、宮本輝紀らが育つのを見た。左端が賀川、右端が高橋英辰監督

兵庫サッカー友の会設立に携わる	1963年 昭和38年	
東京五輪五／六位決定戦「大阪トーナメント」を企画	1964年 昭和39年	東京五輪で八強進出（優勝・ハンガリー）
神戸少年サッカースクール設立に携わる	1965年 昭和40年	日本サッカーリーグ（JSL）開幕
アジアユース（日本）取材	1966年 昭和41年	イングランドW杯（優勝・イングランド）
アジア大会（バンコク）取材	1968年 昭和43年	アジア大会（バンコク）三位
	1969年 昭和44年	メキシコ五輪、三位決定戦でメキシコを破り銅メダル（優勝・ハンガリー）
日本初の法人格を持つサッカークラブ、（社）神戸フットボールクラブ創設に携わる	1970年 昭和45年	第二回FIFAコーチングスクール開校
	1972年 昭和47年	メキシコW杯（優勝・ブラジル）
初のW杯現地取材、06年大会まで九大会連続サッカーマガジンで「W杯の旅」連載開始	1974年 昭和49年	ミュンヘン五輪（優勝・ポーランド）
サンケイスポーツ大阪編集局長（84年）	1976年 昭和51年	西ドイツW杯（優勝・西ドイツ）
	1977年 昭和52年	モントリオール五輪（優勝・東ドイツ）
欧州駆け足ツアー（ハンガリー、フランス、ドイツ取材）	1978年 昭和53年	ムルデカ大会準優勝、奥寺康彦が得点王
W杯取材	1979年 昭和54年	奥寺康彦が西ドイツのIFCケルンと契約、日本人のプロ第二号
	1980年 昭和55年	アルゼンチンW杯（優勝・アルゼンチン）
コパデオロ（ウルグアイ）取材	1982年 昭和57年	ワールドユースを日本で開催
第二回大阪国際女子マラソン事務局長	1984年 昭和59年	日本女子サッカー連盟発足
W杯取材	1986年 昭和61年	ユニセフチャリティマッチ（バルセロナ）に釜本邦茂が世界選抜で出場
大阪サンスポ企画社長	1987年 昭和62年	第一回トヨタカップが日本で開催
EURO84（フランス）取材	1988年 昭和63年	スペインW杯（優勝・イタリア）
釜本邦茂引退試合を企画運営	1989年 昭和64年	ロサンゼルス五輪（優勝・フランス）
ユニセフチャリティマッチ「マラドーナの南米選抜対日本選抜」を企画	1990年 平成元年	メキシコW杯（優勝・アルゼンチン）
天神祭奉納ドラゴンカヌー大会開催		
欧州スーパークップ（ACミラン対バルセロナ）取材		日本女子サッカーリーグ（Lリーグ）開幕



1969年

関西協会理事の頃、ボルシア・MGのバイスパイラー監督、シュロツ・コーチによる指導者講習会を開催



1945年

1944年6月に陸軍特別操縦見習士官。飛行訓練の後、1945年4月に特攻第413飛行隊員となる

1935年

小学4年の時、全国書道展で兄・太郎が2等、浩が入選した記念に。左から父・陸蔵、太郎、書道の来田喜八郎先生、浩



1941年

明治神宮大会準決勝、対青山師範。青山ゴール前、中央(向こう側)賀川、左端・岩谷俊夫



12月29日、神戸に生まれる

1921年 大正10年
1924年 大正13年
1929年 昭和4年

1930年 昭和5年
1931年 昭和6年
1934年 昭和9年
1935年 昭和10年
1936年 昭和11年
1937年 昭和12年
1938年 昭和13年
1939年 昭和14年
1941年 昭和16年
1942年 昭和17年
1944年 昭和19年
1945年 昭和20年
1946年 昭和21年
1950年 昭和25年
1951年 昭和26年
1952年 昭和27年
1954年 昭和29年
1956年 昭和31年
1958年 昭和33年
1959年 昭和34年
1960年 昭和35年
1962年 昭和37年

雲中小学校入学

兄・太郎が神戸一中へ

大谷四郎主将の神戸一中、四度目の全国優勝

雲中小学校卒業、神戸一中へ

阪神大水害。神戸一中全国優勝(太郎四年生)

第10回明治神宮大会優勝

師範優勝の広島師範と天覧試合(太郎主将)

第12回明治神宮大会優勝

(普成中と引き分け両校二位、五年生)

神戸商大予科(現・神戸大)に入学

陸軍特別操縦見習士官

第413飛行隊(特別攻撃隊)入隊。10月に復員

神経大クラブで天皇杯準優勝

産経新聞社入社。大阪クラブで天皇杯準優勝

アジア大会(東京)取材
アジアユース(マレーシア)に同行

大日本蹴球協会(現・JFA)設立。第1回全日本選手権大会(現・天皇杯)

日本が国際サッカー連盟(FIFA)加盟

第二回ウルグアイW杯(優勝・ウルグアイ)

極東大会(東京)で初優勝(中国と同率二位)

関西蹴球協会設立

大日本蹴球協会機関紙『蹴球』創刊号発行

イタリアW杯(優勝・イタリア)

ベルリン五輪、スウェーデンを破り八強

ベルリンの奇蹟(優勝・イタリア)

フランスW杯(優勝・イタリア)

ブラジルW杯(優勝・ウルグアイ)

アジア大会(ニューデリー)三位

スイスW杯(優勝・西ドイツ)

アジアサッカー連盟設立、加盟

メルボルン五輪出場も一回戦敗退(優勝・ソ連)

スウェーデンW杯(優勝・ブラジル)

ローマ五輪(優勝・ユーゴ)

西ドイツからデットマールクラマー・コーチを招聘

チリW杯(優勝・ブラジル)

1931年

神戸の熊内町の同胞幼稚園卒業式で。後列左から3人目



1940年

神戸一中サッカー部部旗の寄贈記念。前列左端が父兄会代表賀川陸蔵、左から4人目が池田多助校長、右端・賀川

